

むかしも今も、片倉小十郎(白石市)は伊達(宮城県)の先陣を務めます!

3月21日、市民の足として親しまれている市民バス「ぎやっするくん」に新たに加わることとなった「小十郎バス」の完成記者会見が、白石城において行われました。

イラストは、株式会社カプコンの協力で、同社のゲームソフト「戦国BASARA2」、「戦国BASARA2 英雄外伝(HEROES)」に登場するキャラクター、「片倉小十郎」です。片倉小十郎は渋くて、勇ましい、おとこ気や忠義があるキャラクターとして特に若い方に人気があります。会見には、「戦国BASARA」シリーズを手掛ける、小林裕幸プロデューサーをお招きしました。

今後は、片倉小十郎をキーワードに白石市を全国にアピールするため、さまざまな事業を展開していきます。また、10月からの「仙台・宮城ディスプレイネーションキャンペーン」では、宮城県一円に観光客が押しよせるように、戦国時代と同様に伊達(宮城県)の先陣を務めます。



▲白石城をバックに小十郎バスの完成を喜ぶ小林裕幸プロデューサーと風間市長



■白石城主片倉小十郎とその人気について

初代景綱は、伊達政宗の薫育に尽くし忠臣第一と称され、二代重長は、大坂夏の陣で伊達の先陣として真田幸村と激闘を交わし、三代景長は、伊達家最大の危機である「伊達騒動」の折、藩政を仕切り伊達62万石を救いました。片倉小十郎はまさに白石のシンボリックな存在です。

「戦国BASARA」の影響や戦国武将ブームの波もあり、白石城を訪れる若い女性観光客が急増しています。白石城の売店の売り上げも、小十郎に関するグッズ売り上げが伸びたことで、前年比で50%増となっています。

記者発表後、白石城の天守閣で株式会社カプコン「戦国BASARA2」の「片倉小十郎」の生みの親である、小林裕幸プロデューサーと風間市長が「ミニ対談」を行い、これからの協力を約束しました。

風間：本日は白石までおいでくださいまして、ありがとうございます。恐らく白石においてなるのは初めてだと思いますが、白石の印象はいかがですか？

小林：新幹線の駅を降りて最初に感じたことは、とてもきれいなまちだと思いました。

風間：現在、人口が減少傾向にあります。この「戦国BASARA」の片倉小十郎のおかげで、若い人たちが商品化に向けた取り組みに芽生えたと思います。実際に甲冑のペーパークラフトやステッカーなど、いろいろなものが出てきているということは、本当にありがたいことです。しかし、どうして戦国武将に着目したのですか？



▲片倉小十郎関連グッズの数々

小林：大河ドラマや、お正月の特別番組などでも戦国武将を取り上げています。日本人にとって戦国武将は、たくさんある歴史の中でも最も魅力的なものであり、戦国時代に生きた小十郎たちはとても熱いものがあり、日本人としてとても興味が持てる、共感できるというところがあります。

風間：戦国武将というと、やはり織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、そして奥州の覇者、伊達政宗という強烈なキャラクターがいる中で、なぜ片倉小十郎に着目したのですか？

小林：「戦国BASARA」では、全国の武将を出そうと考え、大河ドラマで渡辺謙さんも演じた伊達政宗が、戦国ファンの人気投票で1位でしたから主役に決めました。そのライバルで真田幸村が登場させて、政宗が青、幸村が赤というイメージでやってきました。幸村には、時代はおかしいですが、武田信玄や猿飛佐助も登場させました。しかし、物語を作っていく中で政宗にも相方が必要だということで、伊達といえば当然、片倉小十郎だということになり、「戦国BASARA2」から片倉小十郎が登場させました。予想通り人気が出たので、この人気を次の作品につなげようと、「戦国BASARA2 英雄外伝(HEROES)」で片倉小十郎を主人公としました。

風間：真田幸村の娘は、二代重長の後妻となったことをご存じだと思いますが、片倉と真田とのつながりはとても深いものがあります。そこで、これからの



▲白石城天守閣で行われた小林裕幸プロデューサーと風間市長のミニ対談の様子

展開はどのようなようにお考えですか？

小林：伊達政宗と真田幸村は、年齢的にも近いというところからライバル関係としました。そのとき、片倉と真田との関係を知りました。

伊達政宗は当然、大将ですが

真田幸村は武田軍の武将です。立場は違いますが、片倉小十郎を合わせたこれらのキャラクターたちは良い関係の中で、いろいろな展開を考えていきたいと思っています。

風間：行政と一緒に事業を行うということは初めてだと思います

小林：歴史で盛り上がることで、白石市も含めて地方が活性化する手助けをできればと思っています。

風間：ありがとうございます。ゲームでまちを知って、そのまちに行って本物を知って、また新しい歴史を知ることができれば、面白いと思います。これからもよろしくお願いします。ありがとうございます。

小林：片倉小十郎が大好きで、全国からたくさんの方が来るとありますが、市民の皆さんには温かく迎えてもらいたいと思います。これからもよろしくお願いします。ありがとうございます。

企画情報課
☎22-1324